

ザンビア共和国南部州の多様な生態学的環境に居住する 子どもの成長と大人の栄養状態

山内太郎

北海道大学大学院保健科学研究院

気候変動がもたらす地域住民の栄養と健康への影響を評価するため、旱魃常襲地帯であるザンビア共和国南部州シナゾングウェ地区から生態学的に異なる3地域（上部平地、中間斜面地、下部平地）を選び、2007年11月から定期的に身体計測を実施している。

本報告書は、利用可能なデータ48世帯303名（成人140名、子ども163名）の身長と体重、これらから算出される栄養状態の指標、ボディ・マス・インデックス（BMI = 体重(kg) ÷ {身長(m)}²）を用いて、モニタリング調査開始初期段階における子どもの成長と大人の栄養状態について解析した結果を報告する。

現地での測定記録用紙からコンピュータへの入力が遅れているため、利用可能なデータは限られていた。そのため身体計測の測定項目によって分析可能な対象者数は異なっていたが、3地域の性別、成人・子どもの割合はほぼ釣り合っていた。年齢の不明な子どもは分析対象から除外したものの、子どものサンプルサイズは大人よりも大きかった。

成人のBMIの平均値は男性19.7、女性20.9であり、「標準（18.5 ≤ BMI < 25.0）」に分類された。また、個別にBMIを検討したところ70%以上の成人のBMIは「標準」であった。以上の結果から、成人対象者の栄養状態は全般的に良好であったといえる。また3地域間の比較からは、下部平地の居住者は中間傾斜地および上部平地居住者に比べて身長が高くまた体重も重いことが分かった。BMIでは身長と体重の影響が相殺され、有意な地域間差はみとめられなかった。

一方、成人に比べて子どもの成長および栄養状態は悪かった。性・年齢別に身長および体重をプロットし、平滑曲線を引くと、米国国民栄養調査データの3パーセンタイルに相当した。また、性・年齢別のBMIに基づく栄養状態では、男子の35%、女子の45%が「低栄養」と判定された。ちなみに成人では男性の28%、女性の15%が「低栄養」であった。

今後データ入力が進み分析可能なデータが増えていくため、本稿で報告した数値は将来的に若干修正される見込みである。個人に関して十分な経時データが得られるようになれば、本報告のような横断的分析のみならず縦断的分析も可能となり、環境変動がもたらす地域住民の栄養と健康に関する影響を個人レベルでより詳細に評価することができる。

さらに、テーマIIでは身体計測のみならず、世帯の社会経済状況に関するシステムティックな聞き取り調査を同時並行で行っている。これらのデータと身体計測データを合わせることによって、降雨量の変動に対する世帯レベルの適応メカニズムについて解明することが期待される。